



2023年度 ポットラックセミナーの報告

令和6年3月23日(土)、本学にて、「見えてきた新しい外国語教育のカタチ～ICTを効果的に活用した授業～」をテーマに、2023年度ポットラックセミナーを開催しました。今回は、30名を越える皆様からお申込をいただき、今後目指すべき「新しい授業の在り方」について、参加者の皆様と共に考え合う時間をもつことができました。

第一部では、まず、熊本市立帯山小学校の清水佳代先生と熊本市立御幸小学校の和田彩先生から、「思いや考えを伝えたい授業づくりの工夫～ICT活用を通して～」と題して、実践報告をいただきました。目の前の子どもの思いや願いを大切にされた、アイデア豊かなお二人のご実践から、ICTが、人と人をつなぐ大切なツールの一つとなることを再認識することができました。続いて、高知市立義務教育学校土佐山学舎の川越美和先生からは、「個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指して～ICTを一つのツールとして～」と題して、実践報告をいただきました。ご提案いただいたICTを活用した複線型の授業は、まさに「新しい授業のカタチ」であり、これまでの授業づくりや指導者の役割について問い直す機会となりました。

第二部では、東京学芸大学教授の高橋純先生から、「ICTを活かした新たな授業づくり～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点から～」と題して、ご講演をいただきました。1人1台端末を利用したこれからの授業づくりは、単線型の一斉授業ではなく、子供一人一人を主語にした複線型の授業にと、実践例も挙げながら、その重要性についてご教示くださいました。また、まずは個があって、個が集まって学級ができるという、「初めに一人一人がいる」とのお言葉も大変印象的でした。

参加者の皆様からいただいた、「参加させていただいて本当に良かったです。特に、高橋先生のお話は、目から鱗でした」「とても有意義な時間でした。実践してみようと思います」などのお声は、本センターの今後の取り組みへの大きな力となります。本セミナーにご登壇くださった先生方、またご多用な中ご参加くださった皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

(特命准教授 佐藤 美智子)



【質疑応答の様子】

ALT対象の研修と留学生との交流会を開催して



小学校英語教育センターにおいて、「チームティーチングの改善」と「小学校での文化交流の機会の提供」という2つの分野に重点を置いて活動を行ってきました。

まず、チームティーチングを円滑に進めるために、2023年12月7日に美馬市の小学校で外国語教育に携わる8名のALTを対象に研修会を行いました。ALTは授業中によくゲームを行います。そこで本研修では、ALTに様々なコミュニケーション活動やゲームを紹介したうえで、ALTにそれらの活動を分析してもらい、それらがどのような点に役立つかを考えてもらいました。例えば、キーワードゲームは楽しく、語彙を覚えるのに役立ちますが、特にコミュニケーションそのものに役立つものではありません。このような理由から、児童がコミュニケーションのために言葉を使う単元の終わりよりも、むしろ初めのほうが適切と考えられます。また、7月20日には徳島県教育委員会事務局で、3組のALTと意見交換会をもちました。その目的は、ALTのチームティーチングに対する考え方や、ALTが授業で果たす役割について調査することにあります(修士課程の学生との共同研究)。現在、この結果を分析中で、今後数ヶ月の間に、出版に向けて提出する予定です。日本の教師がALTをよりよく理解すれば、よりよいチームティーチングにつながると思います。

また、鳴門教育大学の修士課程に在籍する外国人留学生を引率し、小学校(と中学校)を訪問しました。2月8日に香川県の屋島小学校、19日に古高松南小学校を訪問、そして、2月21日には附属小学校を訪問しました。児童らは様々な国について学び、留学生と直接英語でコミュニケーションをとることができました。今後もこのような活動を継続、拡大していきたいと思います。このような交流は、児童にとっても、日本や日本の教育に関心のある修士課程の留学生にとっても有益と考えます。

(准教授 ジュラード・マーシェン)

小学校外国語教育における学習者用デジタル教科書を活用した授業づくりに関する研究

本センターでは、公益財団法人教科書研究センターからの委託を受け、令和5年度から3年計画にて、「小学校外国語教育におけるデジタル教科書を活用した授業づくりに関する研究—その実態把握と分析に基づいて—」を研究課題に、連携研究を行っています。本研究は、小学校外国語科の授業における学習者用デジタル教科書の活用に係る課題を明らかにし、デジタル教科書を用いた効果的な外国語科の授業の在り方について追究することを目的としています。

そして、1年目にあたる令和5年度は、小学校外国語科におけるデジタル教科書に関する課題を把握し、その解決の方向性を検討することを目的に、小学校英語教育センターのワーキングチームを中心に、文部科学省初等中等教育局の直山木綿子視学官、本学学習指導力・ICT教育実践力開発コースの泰山裕准教授からの指導・支援を得るとともに、授業試行の場として、鳴門教育大学附属小学校および徳島県内の公立小学校2校（佐那河内村立佐那河内小学校、石井町藍畑小学校）を協力校に研究を進めてきました。

その成果の一部については、令和5年10月14日開催の小学校英語教育センターシンポジウム（言語活動を通して資質・能力を育成する小学校外国語教育の授業の在り方について考える—ICTの効果的な活用を通して—）において発表しました。また、1年目の研究成果の全般については、令和6年8月開催予定の「みらい教育セミナー」にて発表予定です。

（センター所長・教授 山森 直人）



§ 研究初年度のあゆみ §

本センターでは、研究開始に先立ちワーキングチームを結成し、先進的な取り組みの情報や資料収集、各社学習者用デジタル教科書の調査、3年間の研究計画の作成等を進めてまいりました。また、直山木綿子先生や泰山准先生からご指導をいただきながら、具体的な研究理論構築に取り組んで参りました。さらに協力校の先生方とともに、実際に学習者用デジタル教科書を活用した授業実践について情報を共有し、授業づくりを支援させていただきました。

研究初年度の主だった取組については、以下の通りです。

- 令和5年1月 連携研究実施計画書の作成
 - 3月 第1回全体会（顔合わせ、研究概要の提示）
 - 4月 ワーキングチーム打ち合わせ（第1年次事業計画案検討）
〃 （理論構築）
 - 5月 第2回全体会（理論の共有と今後の授業実践について）
 - 8月 情報交換、研修会（1学期実践の共有と今後の研究推進について）
 - 12月 児童、教員への意識調査実施（鳴門市、徳島市・名東郡対象）
 - 令和6年1月 意識調査整理・分析
 - 2月 第3回全体会（実践の共有とまとめ）
 - 3月 児童、教員への意識調査実施（研究協力校対象）
意識調査整理・分析
- （※4月～令和6年2月 各協力校において授業実践）



【デジタル教科書を活用した授業の様子】

協力校からは「昨年度まで外国語に苦手意識をもっていた児童が、必要な語彙や表現を何度も練習できることにより、自信をもって学習に向かえるようになった」と報告されています。また、端末を使って個別に練習できるものの、やはり指導者の個に応じた指導は不可欠であり、今まで以上に児童一人一人の学習状況を把握し、支援していくことの重要性が報告されています。

初年度の研究で明らかになった成果と課題を踏まえて、今後も協力校とともに研究を進めて参りたいと考えております。

（コーディネーター 竹内 陽子）

